

数学専攻数学系における院制度変更について

現在、京都大学大学院理学研究科数学専攻数学系博士前期課程(修士課程)では数学系先端コースと数学系基盤コース、数理解析系の3コースがありますが、この制度は2022年度入学の修士課程の学年より下記のように変更されます。なお、2022年度以前の修士課程入学者については従来の制度が継続されます。

1. 先端コースと基盤コースの区別がなくなります。数理解析コースはそのままです。
2. 基盤コース入学時に行われる数学基礎試験が廃止されます。
3. 博士後期課程に進学するための資格試験として qualifying exam (以下 QE と略)が導入されます。この試験は**筆記試験**と**面接試験**より構成されます。筆記試験は年2回実施され、数学の基礎学力が博士後期課程に進学するのに十分かどうか判断されます。筆記試験で十分な学力があると判断された場合、面接試験でさらに数学の研究に関する資質が判断されます。これらの試験結果を総合的に判断し QE 合格者を決定します。

2021年以降の夏に予定されている本学大学院博士前期課程の入学試験では、従来の大学院入試と同じく基礎科目、専門科目、英語の3科目で試験が行われます。面接試験ではすべての受験生に対して、数学の学力や資質に関する判断が行われ、十分な学力と資質があると判断された受験生は入学後の QE が免除され、QE 合格者となります。また、2021年度の入学試験までは出願時に数学系先端コース、数学系基盤コース、数理解析系の3つの選択肢がありましたが、2022年度からは上記の基盤コースと先端コースの廃止に伴い、数学系と数理解析系の2つのみの選択肢となります。